

情 報

第30回：平成17年11月30日

「SimPlant」を使った インプラント術前診査

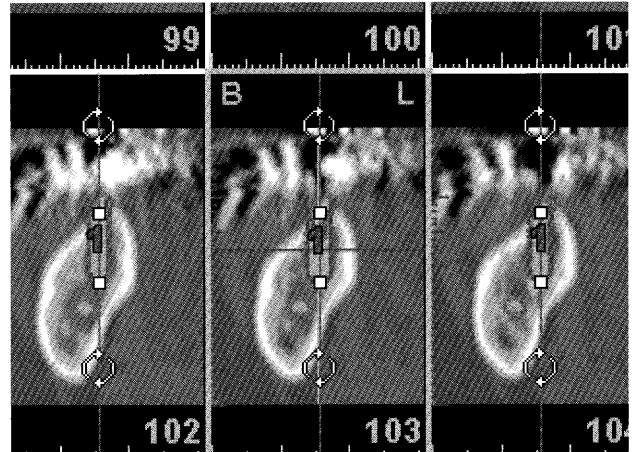
明倫短期大学附属歯科診療所 非常勤歯科医

新潟大学医歯学総合病院 義歯（入れ歯）診療室

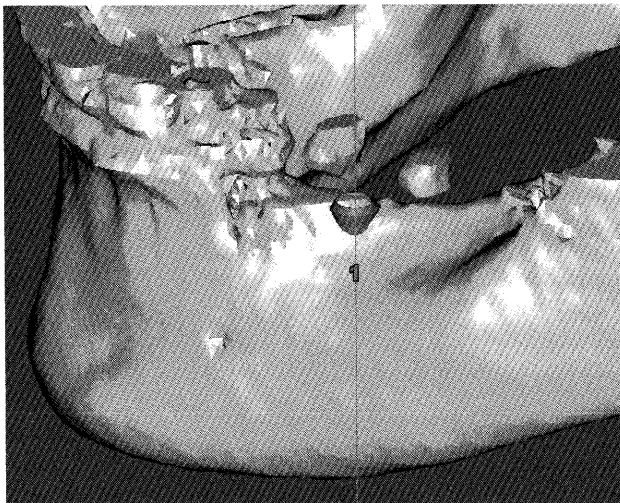
山田 一穂

インプラントは顎骨に埋入し、骨結合（オッセオインテグレーション）させ、補綴していく治療である。インプラントをより機能的に審美的に成功させるには、術前の顎骨の診査がどれだけ綿密に行われるかが重要となってくる。そのために、一般的にはX線診査（デンタル、パノラマ）や、研究用模型といった方法を用いて、顎骨の位置、高さ、厚さを診査していく。それに加えて、新潟大学医歯学総合病院インプラント外来では、CT撮影を行い、顎骨の形態だけでなく、下顎管・上顎洞の位置も3次的に診査している。最近では、CT画像をさらに3次的に再構築し、インプラントをパソコン上で埋

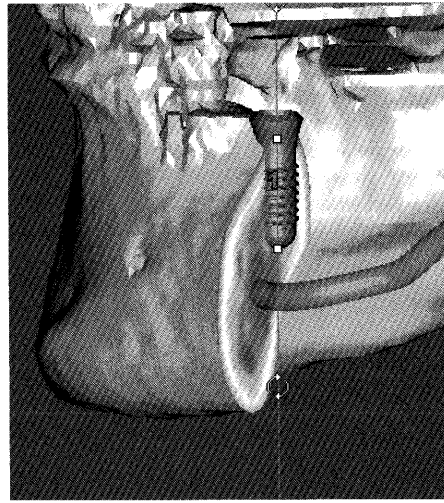
入するシミュレーションソフトが開発され、より詳細な術前診断が可能になってきた。本研究会では、その中でも最も有名な「SimPlant」を用いて、実際行われている顎骨の術前診断、インプラント埋入シミュレーションの様子を紹介した。



(Fig. 1) CT画面上でのインプラント埋入シミュレーション



(Fig. 2-a)



(Fig. 2-b)

インプラント埋入シミュレーションの3次元表示。埋入予定部位（青色）の直下に埋入したインプラントは、歯槽骨頂にあわせて埋入すると、頬側にインプラント体のネックが露出している。Fig. 2-bより、下顎管までの距離も十分あることから、本ケースではシミュレーションよりもやや深めに埋入することを選択した。

(Fig.1～2全て新潟大学医歯学総合病院における、担当症例のシミュレーション)